

道の駅「うれしの まるく」 情報休憩施設



外観

道の駅「うれしの まるく」は、佐賀県内では10ヶ所目に登録され、嬉野温泉駅に隣接する。「まるく」の由来は人を癒して「丸く・円(まるく)」させる拠点、ドイツ語の市場(markt)の意味も込められている。



トイレ入口

トイレ前の通路は高い天井と外光が差し込む明るい空間。各トイレ入口前にはビクトをあしらった「温泉」を想起させる暖簾を用い、九州有数の温泉地である嬉野温泉のイメージを演出している。



多機能トイレ

車いす使用者、大型ベッド使用者、オストメイト、お子様連れなど、施設を訪れるさまざまな利用者に配慮した多機能トイレ。入口には、サインとともに触知図も掲示されている。

図面

機能分散を図り、さまざまな利用者に配慮している。男女トイレは、人とのすれ違いを少なくするため、回避できるレイアウト。床面に進行方向を示すマークも掲示し、スムーズな誘導をはかっている。



水まわりの特長

建物の特徴

道の駅「うれしの まるく」は、2022年(令和4年)9月に西九州新幹線嬉野温泉駅の西口、国道34号線に面してオープン。佐賀県内の道の駅としては10ヶ所目となる。「うれしの まるく」は、地域観光の窓口などを担うゲートウェイ型の道の駅であり、地域や近隣市町を観光してもらうための玄関口としてまちづくりを推進。観光情報やイベント情報、嬉野市をはじめとした周辺地域の特産品を紹介、さまざまな多言語サービスを活用し、海外からのお客様にも対応している。敷地内には、嬉野周辺の観光情報やイベント情報を発信する観光交流施設や手湯足湯などの施設を整備されている。また、防災拠点としての役割も担い、災害発生時の非常電源設備や備蓄倉庫なども整備されている。

トイレの特長

さまざまな利用者を考慮し、車いす使用者やオストメイト、大型ベッド使用者などに配慮した多機能トイレと乳幼児連れや性的マイノリティに配慮した、だれでもトイレを設置。さらに男女トイレには、オストメイト配慮のブースやベビーカーご入れのひろびろブースなどをそれぞれに設置し、機能分散を図っている。また、男女トイレでは、感染対策のために人とのすれ違いを少なくする回避型のレイアウトを採用。さらにトイレ内の空気循環をよくするため、小便器や大便器ブースの仕切りを天井まで仕切らないなどの配慮をしている。そのほか、施設の入口に手洗いコーナーを設けるなど、「うれしの まるく」を訪れるすべての方が、安心・安全に利用できる細やかな配慮がなされている。

建築概要

名称	道の駅「うれしの まるく」 情報休憩施設
所在地	佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿甲4370-2
施主	国土交通省 九州地方整備局 佐賀国道事務所
設計	株式会社徳岡設計
施工	株式会社竹澤建設
竣工年月	2022年6月
敷地面積	3426.41㎡
建築面積	405.79㎡
延床面積	350.46㎡
構造・階数	鉄骨造、地上1階

おもなTOTO使用機器

壁掛大便器セット・フラッシュタンク式:UAXC3CSN
 ウォシュレットPS(擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF5534系
 ウォシュレットアブリコットP(温風乾燥付きエコリモコン):TCF5840AUP系
 自動洗浄小便器-UFS900WR
 ツインデッキカウンター(スペースアップタイプ):MDWE
 自動水栓一体形電気温水器:REAH03B1S125A
 コンパクトノリアフリートイレノック:UADAK21R1A1ASD1WA
 パブリック用折りたたみシート:EWC500RS/幼児用小便器:U310GY
 ベビーシート:YKA25系/ベビーチェア:YKA15系/スタッフ用手洗器:LS850APA



だれでもトイレ

お子様連れや高齢者、性的マイノリティなど、性別を問わずだれでも利用できる「だれでもトイレ」。男女共用トイレを複数設置することで、多機能トイレの混雑緩和にもつながっている。



男性トイレ
洗面・小便器コーナー

洗面、小便器コーナーとともに、隣人の視線が気にならないよう仕切りを設置し、プライバシーに配慮。小便器コーナーの仕切りは天井まで立ち上げず、開放感を演出するとともにトイレ内の空気循環にも配慮している。



男性トイレ
通路・ひろびろブース

トイレ内で人とのすれ違いをできるだけ少なくするため、回避できるレイアウトを採用。床には、進行方向を誘導するマークも掲示されている。また、男女トイレそれぞれにベビーカーご入れのひろびろブースを設置。



女性トイレ

手荷物置きスペースを備えた洗面コーナー。また洗面コーナーとは別に、顔映りのよい照明でお化粧直しがしやすいスタイリングコーナーを設置。さらに、女性トイレ入口近くには、ベビーコーナーも配置している。



女性トイレ
大便器ブース

多機能トイレの利用集中を緩和するため、男女トイレともに、ベビーチェアを設置した乳幼児連れ配慮ブースと汚物流しを設置したオストメイト配慮ブースとした「ひろびろブース」を備え、機能分散をはかっている。



手洗いコーナー

衛生配慮として施設の入口に独立した手洗いコーナーを設置。手洗器は、ボウルが深く水はねがしにくいデザインのものを採用。お子様に配慮して1つは高さを低めに設定している。